

## ASAIO 2019 参加印象記

国立循環器病研究センター 研究所人工臓器部

築谷 朋典

Tomonori TSUKIYA

2019年6月26日、G20開催のために厳重な警備体制が続く大阪を発ち、第65回となるAmerican Society for Artificial Internal Organs (ASAIO)に参加するためにサンフランシスコに降り立った。全国的に梅雨入りしたばかりで湿度・気温ともに高めの日が続く大阪とは異なり、やや肌寒いもののカリフォルニア州北部の乾燥した空気がなんとも心地よい。学会会場はサンフランシスコ中心部、ユニオンスクエアの近隣にあるHilton San Franciscoで、大会長であるLouisville大学のSteven Koenig教授の下、3日間で口演200題(特別講演を含む)、ポスター発表137題が5つの講演会場+ポスター会場にて発表され、熱心な議論が行われた。

分野としては、

1. Cardiac
2. Bioengineering
3. Pulmonary
4. Renal
5. Pediatric

に分類されており、各分野ごとにそれぞれ5、6つのセッションが組まれた。

また、International Federation for Artificial Organs (IFAO) SessionとしてBiomaterialに関するオーガナイズドセッションが設定され、増澤 徹先生(茨城大学)が座長を担当された。日本からは木村 剛先生(東京医科歯科大学)が発表された。

さらに、若手を対象とした優秀演題セッション、研究アイデアコンテスト、企業のための教育講演では、若手研究者たちが各自のアイデアに基づいた研究成果を披露し、そ



図1 会場入口

れに対して会場から忌憚ない意見が次々とぶつけられており、非常に活気にあふれていた。

応募された抄録からの演題では、デバイスに関する臨床研究に加え、機器としての応用を前提とした基礎研究や、確立した基礎的技術を製品にするための製造技術に関する研究が多く発表されていた。さらには、従来のCardiac, Renal, Pulmonaryの各分野に加えて移植のための臓器保護用の機器など、広範囲な分野から研究発表がなされていたのが印象的であった。

このような研究範囲の拡大は、学会誌として発表される論文の質および量を向上させることに対して非常に効果をもたらしているようで、現在年間6回発行されている論文誌は採択率が約40%であるが、今後発行数を増やし、2021年には年12回にすることも報告されていた。

工学者として技術開発に関わる立場からは、これからの人工臓器として実現されることが期待される技術が多く発表されることで大会としての活気が戻りつつあると感じさせる大会であった。

なお来年度、第66回のASAIOは2020年6月10~13日、シカゴにて開催される予定である。

本稿の著者には規定されたCOIはない。

### ■ 著者連絡先

国立循環器病研究センター 研究所人工臓器部  
(〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6-1)  
E-mail. tsukiya@ncvc.go.jp